

お元気ですか

発行所・(福)横浜市社会福祉協議会
障害者支援センター

〒231 横浜市中区桜木町1丁目1番地
-8482 横浜市健康福祉総合センター9階
TEL 045(681)1211・FAX 045(680)1550
http://www.yokohamashakyo.jp/siencenter/

編集発行人・森 和雄

2020/9

コミュニケーション支援に関する アプリについて

学校法人岩崎学園 情報科学専門学校の取り組み

学校法人 岩崎学園 情

報科学専門学校のシステ

ム開発ゼミ(以下、「システ

ム開発ゼミ」)の学生が、社

会・地域貢献の一環でコミュ

ニケーション支援のアプリ

開発に取り組んでいる。

(セイフティネットプロ

ジェクト横浜(以下、「Sプロ

ロ」が協力。)

.....

自閉症や知的障害のある

人の中には、絵や写真を

使う事でコミュニケーション

がスムーズになる人がい

る。これまでSプロでは障

害のある方と周囲の方た

ちとの間をつなぐツールと

して、「コミュニケーション

カード」や「コミュニケーション

ボード」の普及・啓発を

進めており、ホームページ

を通じてツールを活用・作

成できる機能を提供して

きた。システム開発ゼミの

学生は、スマートフォン上で

イラストを手軽に表示で

きるアプリづくりに取り

組んでいる。アプリの仕様

として、端末内の写真デー

タを取り込み、オリジナル

のカードを作成して表示

する機能も盛り込まれる

予定だ。

.....

アプリのリリースに向け

て、令和二年二月に、Sプロ

の委員向けにアプリの体

験会が行われた。当日は、

試作版のアプリを操作し

てもらい、改良すべき点な

どについて意見を募った。

当日参加した委員は

「障害のある方にはスマー

トフォンを扱うことを得

.....

また、アプリの作成に携

わったシステム開発ゼミの

学生は「実際に使用する

方のイメージを掴むこと

が出来たことで、使いやす

さを意識した改良に繋

がった」と振り返った。

担当の小倉正己先生は



体験会の様子



※画面は開発中のものです。実際の仕様とは異なる場合があります。

本アプリは、令和二

年度中に、iOS版およ

びAndroid版が、情報

科学専門学校のアプ

リストアよりリリース

される予定です。(利

用料は無料ですが、ダ

ウンロード時にかかる

通信料は利用者の負

担となります)

なお、正式なリリー

スについては、「セイフ

ティネットプロジェクト

横浜」ホームページ

内でもご案内予定で

す。(QRコードより、

セイフティネットプ

ロジェクト横浜のホー

ムページへアクセス出

来ます)



「お元気ですか一九号」
の発行にあたって

皆様いかがお過ごしで

しょうか。新型コロナウイルス

イルスの影響により、そ

れぞれのお立場で大変

なご苦労をされているこ

とと思います。

六月に発行予定であっ

た「お元気ですか一九一

号」も、諸般の状況によ

り発行を延期としまし

た。取材にご協力くだ

さった方々をはじめ関係

者の皆様にはご心配を

おかけし、申し訳ありま

せんでした。三ヶ月遅れ

の発行となりましたが、

ご高覧いただければ幸い

です。

「新しい生活様式」の

もと、慣れない環境での

生活が求められ、まだま

だ先が見えない状況が

続いています。この困難

を乗り越えていけるよ

う、支援センターも皆様

とともに、知恵や力を出

し合っていきたいと思

います。

(障害者支援センター担当理事

森 和雄)

令和二年度
横浜市社協障害者支援センター事業と予算

今年度の予算総額は、約三十一億七千万円。「福祉バス事業」と「移動情報センター事業」が新たに移管されたが、運営費助成団体の減少により、前年度から約一億三千万円の減となった。

今年度は新型コロナ対策のため、年度当初から一部の事業を休止するなどの影響を受けたが、状況に応じて再開し、以下の事業に重点的に取り組んでいる。

障害理解の推進

「セーフティネットプロジェクト横浜」支援事業では、コミュニケーションボードなどを用い、当事者や家族の主体性を大切にしながら、地域防災拠点や商店街などへの働きかけを進める。

また、「当事者発地域啓発支援事業」は、区

社協と協働して、地域の取組が障害理解の場となるよう実施する。

また、障害者団体部会の活動も含め、当事者や家族が発信する啓発活動を支援する。

後見的支援制度の推進

各区の運営法人と協働し、地域での身近な見守りや本人の希望と目標に基づく支援等を行う。また、横浜市・運営法人とともに、制度の安定的かつ持続的な運営に向けた検討を行う。

今後も登録者拡大に努め、区社協や地域ケアプラザなどと連携した制度周知を行い、身近な見守り体制づくりを進める。

移動情報センター・

福祉バス事業の実施

各区社協など関係団体と連携し、適正な運営を行う。事業の実態や課題の整理を行い、当

事者や家族の思いと生活課題の集約を進め、解決に向けた検討に着手する。

横浜あゆみ荘の
サービス運営の向上

レストラン厨房などの大規模改修を行い、二月にリニューアルオープンした。新しいメニューでより満足度の高い食事サービスを目指す。

今後、新たな利用者の開拓に向けたPRや当事者や支援者を対象とする研修の充実、地域への障害理解に向けた啓発事業に取り組む。

受注センターわーくる

新型コロナウイルスの影響により事業所の受注機会が減少しており、わーくるの強みであるノウハウの蓄積や関係機関・団体・企業とのつながりを活かして、受注機会の回復や新規獲得を図る。

また、受注能力の向上に向けた研修会を開催するなど、受注拡大と障害者の社会参加促進に取り組む。

ガバナンスと

コンプライアンスの徹底

障害者支援センターが関わる事業所・団体は、小規模のところが多く、運営支援の観点から適切なリスク管理が求められる。

引き続きコンプライアンス研修を行い、会計実務に係る支援や監査体制の強化により、適切な運営支援を目指す。

地域訓練会助成事業

地域訓練会の運営を支援し、活動費を助成する。併せて、関係機関や障害児家族に対し訓練会の周知に取組む。

助成予定…五十九団体

作業所型助成事業

作業所型の運営を支援し、その運営費を助成する。

助成予定…七十七か所

地域活動ホーム助成事業

機能強化型活動ホーム二十三か所の運営を支援し、その運営費を助成する。

グループホーム助成事業

A型グループホームの運営を支援し、その運営費を助成する。

助成予定…四か所

人権擁護事業

人権擁護の観点から啓発活動やモニター活動を行う。なお、B型グループホームへのモニター活動について関係機関と連携して実施する。

地域活動支援事業

医師・弁護士・税理士などを派遣し、専門相談を実施する。また、グループホームの緊急時の経費助成を行う。

研修事業

当事者や家族、関係機関職員などに対し、障害者福祉の総合的な研修を実施する。

令和2年度横浜市社協障害者支援センター事業予算	
事業名	予算額(千円)
地域訓練会運営費助成事業	85,287
地域活動ホーム事業	532,635
地域活動支援センター・作業所型助成事業	1,703,963
グループホーム助成事業	55,532
販路拡大事業	6,656
家庭援護事業	2,547
研修事業	1,490
福祉団体活動支援事業	3,000
地域活動支援事業	13,685
療育検診活動事業	614
啓発活動事業・障害者団体部会	3,077
調査研究事業	479
人権擁護事業	2,950
助成団体監査事業	6,000
作業所等賠償責任保険事業	1,344
セーフティネットプロジェクト横浜支援事業	2,109
福祉バス運行事業	59,703
障害者後見的支援事業	201,965
よこはま障害者共同受注総合センター事業	20,300
移動情報センター運営事業	151,734
横浜あゆみ荘事業	237,185
その他	74,630
合 計	3,166,885

運営委員会委員長を辞するにあたって

平成十六年四月に（財）横浜市在宅障害者援護協会と（福）横浜市社会福祉協議会の組織が「一体化し、「障害者支援センター」が誕生しました。その翌月には、ここに十三人の「運営委員」が任せられ、以来十七年、私はそこでの委員長のお役目を務めさせていただきしました。

この三月末日をもって運営委員会の議長役を退かせていただくことになっておりましたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、三月に開催予定だった運営委員会が中止となつてしまいましたので、この誌上をお借りしてひとことご挨拶を述べさせていただきます。

「当事者性」を正面に議事進行役のような運営委員長役割を取

らせていただきながら、常に感じていたのは、各委員から出されるご意見と政策提案が「当事者性」というべきものに貫かれていたということでした。それは、常に障害者と家族の視点に立ち、ともに歩み、その主体的な決定と参画を支持し、支援するといふものです。そして同時に、一歩一歩前進して行こうとする「運動性」と「開拓性」に満ちたものでした。

これからの道筋を

あるとき、「法制度が整備されてきたら、かえって生きるのが不自由になった」という言葉が出されました。おりしも、対象ごとに分けた就労支援が始まり、福祉サービスを受ける者はできるだけ働き、社会に経済的な見返りをもたらしと迫る雰囲気がありました。本当にそれだけでいいのだろうか、人が生きていくことの全体を捉えなくていいのかとの鋭い問いかけだったと思います。

ところが、ここ二年ほど新しい政策提起がなされてきたのは、さながら運営委員会での先の発言に応えたもののようでした。それは「ある個人にとつてのよい人生・暮らしとはどういうものか、その人自身の到達目標を立て、その目標に到達するのに必要な支援を編み出す」。社会的投資論と言われるものです。この、人々への投資がもたらす社会への見返りは、経済的なものばかりでなく、「人々の自律とつながり、コミュニティへの参加」、私流に言えば排除せず支え合う社会への道のりです。かの運営委員はこうしたことを見据えていたのでしょう。重要な課題提起でありました。

……………

最後になりましたが、森和雄センター長をはじめとする支援センタースタッフの専門的な知見と情熱を傾けてのお仕事に支えられての運営委員会でありました。そして横浜市行政の方々がここでの論議を真摯に汲み取り、施策に生かしてくださいました。深くお礼申し上げます。ありがとうございました。

皆様のこれからの更なるご活躍を心から念じております。



（障害者支援センター運営委員会前委員長 谷口 政隆）

グループホーム

港北壱番館（港北区）

付岡 博子さん

港北壱番館には五名の男性が入居しており、付岡さんはお掃除のボランティアとして、生活を支えている。

付岡さんが港北壱番館のボランティアを始めて二十年以上が経つ。週に二度、主に拭き掃除と掃除機がけを部屋の隅々まで行っている。

「自分のペースで、無理なく活動することが長く続ける秘訣」と教えてくれた。



お掃除をする付岡さん

ボランティア活動の原点は、元々趣味で始めた手話とのこと。手話サークルへ加入し区のイベントなどに参加する中で、地域の人々との交流があり、そこで知り合った運営委員長からの紹介がきっかけだった。今でも当時のつながりが続いているという。

現在では更に活動の幅が広がり、区の災害ボランティア連絡会や拡大写本のグループに所属しながら、様々な活動に長く携わっている。

「付岡さんは、みんなのお母さんのような存在」と職員やメンバーからも信頼が厚い。「みんなに頼られることは嬉しいが、結局は自分のため。たわいもないことが楽しい。これからボランティアとして貢献できれば」と笑顔で語ってくれた。

障害者後見的支援室の取り組み 『「らるご」発!』『みまもり応援隊』

後見的支援室では、障害理解を地域に広げ、地域の方たちの協力を得て、障害のある人の地域生活を支える取り組みを進めている。今回は『中区後見的支援室らるご』の実践を紹介する。

みまもり応援隊

地域に障害者後見的支援制度を広げていく役割の担当職員の土屋さん。これまでの周知活動を振り返り「地域の方たちの協力を得るためには、制度の説



『みまもり応援隊』の江内さんとらるごの土屋さん(右)

「らるご」の広報誌などを通して、障害のある人やこの制度への理解を少しずつ深めていただいくところから始めている。
地域へ発信!
どのように呼びかけたら

よいか悩んだ土屋さんは中区社協に相談。一目見てわかりやすいチラシがあるとういとのアドバイスをいただいた。簡潔で、誤解を招かない表現にするなど、内容をスタッフと何度も話し合い、「らるご」の紹介と『応援隊』の協力依頼を掲載したチラシを作成した。

今年の三月には、中区社協の協力を得て、中区ボランティアセンターの登録者(約八七〇名)にチラシを送付した。その後、江内さんから問い合わせがあり「私にも障害のある人たちの暮らしを応援できることがあれば」と『応援隊』に登録していただいた。

これから

現在、区内の地域ケアプラザなどにもチラシを配布し、協力を呼びかけている。また、江内さんからは、回覧板での周知が効果的では



チラシの活用方法を検討中

ないかとの提案もいただいた。土屋さんは『「応援隊」のみなさんからも様々なことを教えていただきながら、「らるご」と地域とのつながりをさらに広げていきたい。そして、「らるご」の登録者に地域のことを伝えていきたい」と話す。将来、『「応援隊」のみなさんと登録者が知り合うきっかけとなる茶話会を開催したいと夢は膨らむ。今後も「らるご」の実践は続いていく。

※問い合わせ先

中区後見的支援室らるご
☎ 〇四五(二六四)八八三〇
〇四五(二六四)八八三一

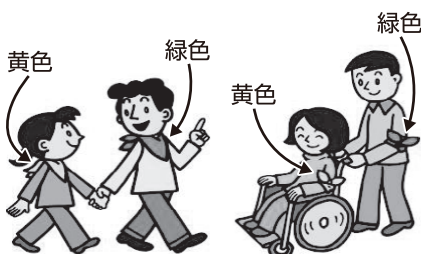
広げよう! 黄色と緑のバンダナ

「セーフティーネットプロジェクト
横浜の活動から」

災害時は、障害のある人が必要な支援を受けにくかったり、また誰が支援できるのかわからないという混乱した状況になることが想定されます。

セーフティーネットプロジェクト横浜(※)では、そのような状況でも、障害のある人が支援を受けられるよう、「支援してほしい人」「黄色」「支援できる人」「緑色」のバンダナなどを身につける運動を推進しています。

災害の多い時期、まずは災害時の備えとして、市販のバンダナやハンカチを用意してみたいかがでしょうか?



(※)セーフティーネットプロジェクト横浜

障害のある人が地域で安心して暮らしていくために、セーフティーネットを作ることを目指し、2005年7月に発足。市内15の団体・機関で構成され、当事者や家族が、自分たちの出来ることから活動していくことを大切にしながら、さまざまな障害についての理解を進めていこうと活動している。

問い合わせ セーフティーネットプロジェクト横浜事務局
横浜市社会福祉協議会障害者支援センター
TEL 045-681-1211 FAX 045-680-1550

横浜あゆみ荘 「レストランあゆみ」 リニューアル

◆刻み食に代えて

軟食の提供を開始
はまぼろしを軟食・
ミキサー食で味わって
いただけます。

横浜あゆみ荘「レストランあゆみ」は、厨房をリニューアルし、令和二年二月十五日に再オープン。これにあわせ、特別ミキサー膳を发展させた新メニュー「やわらか膳」・「やわらか朝食セット」をスタートしました。

夕食は、ハンバーグマトソースと鮭のクリーム煮をメインとした「やわらか膳洋風」と、つみれ和風鍋や白身魚の煮付けをメインとした「やわらか膳(和風)」を準備。つみれ和風鍋は、横浜特産「はまぼろし」を使ったシエフ特製の逸品となっております。柔らかく上品な味わいをお楽しみください。お子様向けには、

「やわらかお子様膳」をご用意。朝食は和風セットと洋風セットからお選びいただけます。また、日帰りのお客様向けに「特別松花堂弁当」の準備もございます。

夕食、朝食、昼食いずれも、軟食とミキサー食の2種類から選択可能。ソフト食形態の料理「軟食」は、よりおいしく、より安全にお召し上がりいただくため、刻み食に代わり提供するお料理です。柔らかい食材を利用し、素材の形を活かし、食べる際の負担が少なくなるよう調理いたしました。歯茎や舌でつぶして味わっていただけますので、これまで以上に食事を楽しんでいただけます。ミキサー食については、シンプルに一本化。利用される方が再加工しやすいようにブレンダーを準備いたしました。

ご飯については、通常炊飯した白飯に加え

て、軟飯、お粥、ミキサー粥から選択可能。パンも、パン粥、パン粥ミキサーと準備しています。

お問い合わせは、
横浜あゆみ荘まで
☎〇四五(九四)八三八三

◆詳しいメニュー・アレルギー対応については、「横浜あゆみ荘」ホームページをご参照ください。

<https://www.yokohamashakyo.jp/ayumiso/eat/>

横浜あゆみ荘では、リニューアルした「やわらか膳」、旬の食材を活かした「御膳料理」等、様々なお料理で、お客様をお待ちしています。横浜あゆみ荘を是非、ご利用ください。



やわらか膳洋風ミキサー



やわらか膳洋風軟食



みどり福祉ホーム
大滝 肇さん

横浜の電動車椅子サッカーチーム「横浜ベイドリーム」に所属している大滝さん。元々スポーツが好きだったが、高校時代の友人に誘われてサッカーを始めた。チームには高校卒業後に入ったので、もう十年近く所属していることになる。

ポジションはキーパー。ご本人曰く「守り切った時に喜びを感じるタイプ」とのこと。優しく穏やかな大滝さん。これからは、メンタルを鍛えて冷静に判断できるようにしたい、と話してくれた。

電動車椅子サッカーは、車椅子の前にフットガードをつけ、四名で前後半各二十分間行

う競技。時速十キロまで出すことができるのでかなりの迫力だ。

横浜には二チームあり、もうひとつのチームにはなかなか勝てないそうだが、二年前には、県大会で優勝しているというから、強豪チームだ。

現在使っている競技用の電動車椅子は、数年前に亡くなった友人が、大滝さんに遺してくれた形見だ。その車いすで、全国大会二回戦突破をめざす。

練習風景



チームのユニフォーム



あゆみ荘

だより

◆和室の洋室化改修

工事が完了

横浜あゆみ荘では、多くのお客様から、「和室を洋室に」との声をいただいたため、それらの声に応え、二年前に二室の和室を洋室に改修しました。

この度、さらにもう一室の和室を洋室に改修し、今年の六月十五日から、ご利用いただいております。

これで洋室は四部屋となり、より利用しやすくなりました。皆様のお越しを職員一同お待ちしております。



新しい洋室に

◆新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対策について

横浜あゆみ荘は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、現在、宿泊者数や利用できる館内施設、各種サービスを制限するなど営業規模を縮小して運営しております。

また、館内の消毒や換気を徹底し、密集を防ぐための各種対策を実施し、お客様には、手洗い、手指消毒、体調確認、検温などのご協力をお願いしております。

今後、感染者が急速に増加するなど状況が変化した場合は、利用内容を変更する可能性もございます。詳しくは横浜あゆみ荘ホームページでご確認をお願いいたします。お客様には大変ご不便をおかけいたしますが、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

よこはま障害者共同受注総合センター
受注センター わーくる通信

首都圏基板ネットワークでは、不要になったパソコンを回収、分解した部品などを資源として売却することで収入を得ている。所属している就労継続支援B型事業所ぶれいす(中区・以下、ぶれいす)に横浜市社協が回収を依頼した。

◆健康福祉総合センターで作業を実施

横浜市社協で多数のパソコンを廃棄する時に、ぶれいすがこの取り組みを始めたことを聞き、まとめて回収してもらうことになった。

回収時はセキュリティ対策として、事務所のある健康福祉総合センターに向いてもらい、一部破壊する作業を実施した。

◆破壊作業が収入に

解体作業は、今までの経験から工具を増やすなど工夫を重ねてきた。部品組立てなどとは異なり、壊すということが、ストレス発散になる



ハードディスクに傷をつけて破壊

とのこと。メンバーさんは「細かいものが多く、よく見るのに注意が必要で、力がある仕事」と話す。手慣れた様子で手際よく作業を進める。今回は、二日間、計八時間で三百台程のハードディスクを破壊した。

ぶれいす職員、鶴見さんは「この作業で工賃収入も上がり、メンバーのやる気もでた」と話す。

◆首都圏基板ネットワークの取組み

首都圏基板ネットワークには横浜市内の他、神奈川県内の複数の事業所が所属している。分解した資材は大量にまとめて売却することでより多くの収入につながるため、それぞれの事業所で

解体した資材を首都圏基板ネットワークで取りまとめて売却する。

昨年度、事務局を担う露口さん(平塚市・トム)から依頼され、仲間を増やすための体験会実施にわーくるが協力した。その後、横浜市内でも三か所の事業所がこの取り組みに参加することになった。

◆全国から首都圏に

もともとは新潟から取り組みが始まり、その後、関東、東北、関西にも広まって、障害者が同じ作業を行う任意団体として組織された日本基板ネットワーク。その全国大会に参加したトムとぶれいすが、昨年度首都圏基板ネットワークとして取り組みを開始した。

露口さんは「今後のデジタル化社会にもマッチし、地球環境保護にもつながる」と考えて、このネットワークに参加を決めたそう。

普段、首都圏の企業やホテルなどからの不要パソコンの引取り依頼

などに対応しているが、個人からの引取りの希望にも応じている。鶴見さんからは、「不要なパソコンがあれば回収に出向くので、処分を考えている方は連絡して欲しい」とのことであった。



手際よくハードディスクを取り外していく

連絡先

【首都圏基板ネットワーク事務局】

特定非営利活動法人トムトム(担当:露口さん)

電話 0463-71-6171

【横浜市内】

就労継続支援B型事業所ぶれいす(担当:鶴見さん)

電話 045-306-6382